



TOHOKU
UNIVERSITY

2022



教育が変われば、
世界は変わる。

東北大学大学院教育学研究科
東北大学教育学部
Graduate School of Education/Faculty of Education

「教育」を問うことは、 「人間」の成り立ちを問うこと



八 友 広

東北大学
大学院教育学研究科長・教育学部長

教育学部・教育学研究科では、教育というきわめて人間的な事象について、さまざまな視点から研究をおこなっています。長年にわたり、教育学と教育心理学をその両輪としてきましたが、2018年からは、教育情報学との組織統合により、コンピュータをはじめとする情報通信技術と教育との結合についても研究を開始いたしました。大学院博士課程を有する教育学研究科のなかで、このように情報系の研究者を有する教育学研究科は珍しい存在となっております。

コロナ禍のなかにあつて、大学はなお様々な困難に直面しております。しかしながら、この一年の間に、オンラインによる授業をはじめとして、大学は困難を乗り越える技術に急速に習熟しつつあります。オンラインによる国際シンポジウムが開催されることも、いまでは日常的なものとなりつつあります。研究科内で開催された国際シンポジウムに、昨年度は、1000名を越える参加者がありました。テクノロジーがもたらした到達点とすることができるでしょう。人間の有する柔軟性が、ここには示されています。

教育を問うことは、人間の成り立ちを問うことでもあります。若い皆さんが、この問いの世界に飛び込んで来て下さることを、心から期待しております。

学部長挨拶について
詳しくはこちら



教育というきわめて人間的な事象を
あらゆる視点から探究する。





TOHOKU
UNIVERSITY

東北大学大学院教育学研究科
東北大学教育学部

CONTENTS

生涯教育科学コース
教育政策科学コース
グローバル共生教育論コース — 5

教育情報アセスメントコース
教育心理学コース
臨床心理学コース — 6

教育学部の特徴と学習の流れ
教育学コース
教育心理学コース — 7

在学生インタビュー — 8-9

施設紹介 — 10

各種データ — 11

取り組み — 12-13

学生支援制度の紹介 — 14

論文・研究紹介 — 15

東北大学教育学部Q&A — 16



教育学研究科の紹介

生涯教育科学コース

人間の誕生から死にいたるまでのプロセスを研究する手法を学ぶ

持続可能で公正な社会の形成に資するため、生涯にわたる人間形成と教育のあり方について、原理的、巨視的、社会的な視点から深く理解し、知識基盤社会、生涯学習社会に必要な洞察力、企画力、実践力を有する人材を育成することを目的としています。具体的には、教育を「人間形成」のプロセスとして広くとらえ直し、学校という制度化された学びの場のプロセスだけでなく、人間の誕生から死にいたるまでのプロセスを、哲学、歴史、社会学、文化人類学の視点から研究する手法を学ぶことができます。

教育政策科学コース

政治・経済・社会が複雑に絡み合う課題の解決能力を育成

財政危機や少子高齢化とともに民族・文化の多様化が進む国々では、効率的な資源配分だけでなく異質かつ多様な人びとの公正な処遇という観点からも教育政策を考えていく必要があります。本コースでは、教育社会学、教育行政学及び比較教育学の学問領域を「教育政策科学」という共通の枠組みのもとに統合した教育プログラムを提供することで、上記のような政治・経済・社会が複雑に絡み合う課題の解決に求められる、幅広い視野からの課題発見能力、高度な分析能力及び批判的思考力をバランスよく備えた人材を育成していきます。

グローバル共生教育論コース

グローバル化する社会における新しい教育の実践と研究ができる人材を育成

グローバル化する世界における複合的で多様な課題に対応し、持続可能な社会を構築するための新しい教育のあり方への変容が求められています。本コースでは、学校教育、成人教育、国際教育開発、多文化教育という学際的な観点から、知識伝達型のこれまでの教育を問い直し、価値観の異なる人々と協働しつつ「正解のない」新たな状況に当事者意識を持ち対応できる教育や実践を探究します。本コースでの学びを通し、グローバル化する社会における教育の課題を、ローカルな現場にも立脚しながら重層的に把握し、多様性の尊重、公正、社会正義といった現代社会に求められている価値観や倫理観に基づき分析し、実際的な問題解決に貢献できる専門能力を有する研究者と実践者を育成します。

Faculty Members

甲斐 健人
教授・スポーツ文化論
池尾 恭一
准教授・人間形成史

八畝 友広
教授・人間形成史
石井山 竜平
准教授・社会教育学

李 仁子
准教授・人間形成論
鷺谷 洋輔
准教授・スポーツ文化論

生涯教育科学コースについて
詳しくはこちら



Faculty Members

青木 栄一
教授・教育行政学
井本 佳宏
准教授・比較教育学

島 一則
教授・教育社会学
後藤 武俊
准教授・教育行政学

福田 亘孝
教授・教育社会学

教育政策科学コースについて
詳しくはこちら



Faculty Members

谷口 和也
准教授・学校教育論

松本 大
准教授・成人教育論

劉 靖
准教授・学校教育論

末松 和子
教授・多文化教育論
(協力講座教員)

高橋 美能
准教授・多文化教育論
(協力講座教員)

渡部 由紀
准教授・多文化教育論
(協力講座教員)

グローバル共生教育論コースについて
詳しくはこちら



教育情報アセスメントコース

学びのイノベーションを視野に入れ
アセスメントの基礎を固める

現代の教育・学習環境のデザインにあたっては、すべての人びとに開かれた学習機会の提供という観点からInformation and Communication Technology (ICT)のより発展的かつ有効な導入が求められています。そこでは、ICTを駆使した教育プログラムの開発だけでなく、そのプロセスや効果の検証・アセスメントが重要になってきます。本コースでは、日本社会の成熟化、少子化、価値の多文化が進む知識基盤時代の教育にふさわしい、学びのイノベーションを視野に入れつつ、アセスメントの基礎を固め、客観的なデータ・根拠にもとづいて教育を測定し評価するために必要な専門的能力・スキル・知識を修得した人材を育成していきます。

教育心理学コース

教授・学習や人間発達のしくみと
その支援ニーズを心理学的観点でとらえる

教育心理学における「教育」とは、広く、人と人がかかわる場面の問題としてとらえることができます。例えば、分数の掛け算につまずく小学生にどのように教えたらよいか、なぜ中学生の非行発生率は他の世代より高いのか、自閉症スペクトラム障害などのコミュニケーションに困難を抱える子どもたちをどのように支援していけばよいか、などです。本コースでは、こうした教授・学習や人間発達のしくみ、ならびに発達過程における障害や支援ニーズに対して、心理学的観点から多面的・多角的にとらえ、そのメカニズムを明らかにすることで、その理論および実際の心理的支援や教育的支援を実証的手法により開発できる人材、ならびに心理専門職を養成する人材を育成します。

臨床心理学コース

心理専門職として
広く社会に貢献できる人材を養成

子どもや成人をめぐる心理社会的問題を見ると、学校における不登校やいじめの問題、度重なる災害による問題、虐待やハラスメントなど家庭や組織での問題など様々な領域で、その深刻さを増しつつあります。本コースでは、様々な領域において心理的問題を擁する方々やその家族に対する援助についての新たな知見を見出す研究者を養成し、また、相談や援助の業務に従事する公認心理師や臨床心理士の受験資格を取得し、心理専門職として、広く社会に貢献できる人材を養成します。

Faculty Members

- | | | |
|--|--|---|
| 有本 昌弘
教授・教育評価測定論 | 熊井 正之
教授・教育情報デザイン論 | 小嶋 秀樹
教授・教育情報デザイン論 |
| 柴山 直
教授・教育評価測定論 | 渡部 信一
教授・教育情報デザイン論 | 熊谷 龍一
准教授・教育評価測定論 |
| 佐藤 克美
准教授・教育情報デザイン論 | 中島 平
准教授・教育情報デザイン論 | 松林 優一郎
准教授・教育評価測定論 |
| 倉元 直樹
教授・教育情報デザイン論
(協力講座教員) | 宮本 友弘
教授・教育情報デザイン論
(協力講座教員) | 佐藤 智子
准教授・教育評価測定論
(協力講座教員) |



教育情報アセスメントコースについて
詳しくはこちら

Faculty Members

- | | | |
|--------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 神谷 哲司
教授・発達心理学 | 工藤 与志文
教授・教授学習心理学 | 長谷川 真里
教授・発達心理学 |
| 野口 和人
教授・発達障害学 | 川崎 聡大
准教授・発達障害学 | 深谷 優子
准教授・教授学習心理学 |



教育心理学コースについて
詳しくはこちら

Faculty Members

- | | | |
|---|---|------------------------------------|
| 若島 孔文
教授・臨床心理学
・家族心理学 | 安保 英勇
准教授・臨床心理学
・コミュニティ心理学 | 本多 奈美
准教授・臨床心理学
・精神医学 |
| 前田 駿太
准教授・臨床心理学
・生理心理学 | 吉田 沙蘭
准教授・臨床心理学
・医療心理学 | 大場 麗
助教・臨床心理学
・芸術療法 |
| 亀倉 大地
助教・臨床心理学
・パーソナリティ心理学 | | |



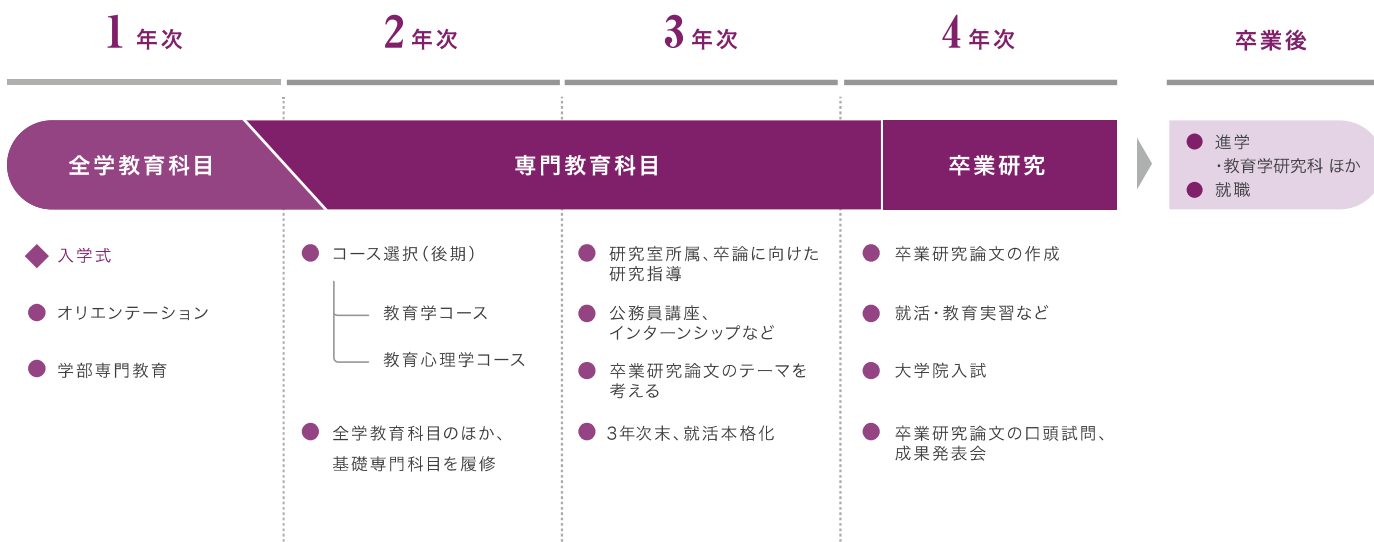
臨床心理学コースについて
詳しくはこちら





教育学部の特徴と学習の流れ

東北大学教育学部では、4年間を通じた、柔軟で一貫性のある教育プログラムを実施しています。1年次においては、全学教育科目を中心としながら、幅広い教養の形成を行います。2年次以降、専門科目の授業を受講していきます。その際、「教育学コース」と「教育心理学コース」のいずれかを選択することとなります。3年次の前期の間に指導教員を決定し、後期から研究指導が開始されます。これらをふまえて、4年次には卒業研究を行っていきます。



コース選択(2年次後期)

教育学コース

教育の思想・歴史・組織・制度や、教育の内容・方法・組織(学びのイノベーション含む)と社会諸制度との関わりなど、多面的な教育の諸現象について、教育学および教育に関連する諸学問の内容を学び、自ら課題を設定して研究に取り組みます。文献講読・フィールド調査・実験・社会調査などを行い、教育学の研究方法を修得します。そして、その成果を卒業研究としてまとめます。

教育心理学コース

教育や発達・適応に関する諸現象について、人間行動・心理の状態に関わる側面から、心理学的な概念や理論を学び、教育や発達・適応上の諸問題を解明するために自ら課題を設定して研究に取り組みます。文献講読・行動観察・実験・質問紙調査などを行い、ICTリテラシーなどを学びます。そして、その成果を卒業研究としてまとめます。また公認心理師のためのカリキュラムも準備されています。

コース選択について
詳しくはこちら



文系・理系の垣根を越えて
やりたいことが見つかる学部です。

石月 由紀子

教育学部教育科学科
教育学コース 4年
新潟県立新潟高等学校 出身



在学生の声

時間をかけて自分がやりたいことを考えられる環境で学びたいと思い、東北大学教育学部へ進学しました。教育学部というと教員養成課程がメインだと思われがちですが、ここは「教育」という観点から人の学び全般を捉える視野の広い研究を行うことができます。たとえば歴史学や心理学、工学など、文系と理系の垣根を越えた多種多様な研究のアプローチがあるんです。私もたくさんの分野をとおして教育を見るうちに、興味を絞ることができました。現在私は、工学的な観点から人の認知を捉える研究に興味を持っています。具体的には、自然言語処理という人間の言語が分かる人工知能に関する研究です。このように、文系でも教育というテーマを通して理工学的な研究に携わることができますし、そのための知識やスキル

を得られる環境が整っています。卒業論文のテーマは、人間の会話における「言葉の省略」を情報学的な視点から説明するという内容です。

東北大学の教育学部は、幅広い学問領域に触れながら時間をかけてやりたいことを見つけることができる環境なので、最初から選択肢を狭めず可能性を模索していきたい方には特におすすめです。また、人の学びを見つめることで、自分の学びも深く考えることができるのも教育学の特徴だと思います。各分野に精通する先生方が多くいらっしゃり、研究環境も充実しているので、学びの環境を重視される方は有意義な学生生活を送ることができるはずです。

石月さんのタイムスケジュール

7:00 起床

⋮

8:00 通学

⋮

9:00 図書館で自習

卒業論文準備のため
過去の論文を読みます

⋮

12:00 文系食堂で友達とランチ

⋮

13:00 カフェで休憩

川内萩ホール内にあるカフェが
穴場でお気に入りです

⋮

14:40 「教育学実習」1コマ目

⋮

16:30 「教育学実習」2コマ目

プログラミング演習を受講します

⋮

18:30 帰宅

⋮

20:00 ゼミの準備

⋮

22:00 趣味の読書や音楽鑑賞

⋮

24:00 就寝



卒業後の進路 (予定)

東北大学大学院教育学研究科
総合教育科学専攻
教育情報アセスメントコース

自然言語処理に関する研究を教育学的な観点からの探究するため、大学院へ進学します。社会に出た後は、学んだことを活かして企業の研究開発に携わることが夢です。

図書室

Library

研究棟6階に位置する教育学部の図書室は、フロアの半分ほどを占める広さを有しており、専門スタッフ2名が配置されています。閲覧用の大きなテーブルと椅子、キャレル(個人学習用の閲覧ブース)、コピー機、図書検索用のパソコンなどが備えられています。教育関連の専門書、雑誌、大学紀要など1万冊近くの蔵書が、開架式の書棚と12連の電動集密書架に所蔵されており、学生や教職員の教育・研究に大きな役割を果たしています。



コンピュータ実習室

Computer Room

コンピュータ実習室には、コンピュータ30台とプリンタ3台が設置されていて、各コンピュータにはワープロや表計算などの基本的なソフトをはじめ、4種類のデータ解析ソフトがインストールされています。室内にはソフトの使用法やデータ解析を学ぶためのテキストも備え付けられていて、授業や講習会などに利用されるとともに、学生が研究や学習をすすめるために活用しています。

実験室

Laboratory

学習(人間が学び理解するメカニズム)に関する各種実験、認知(種々の感覚に基づく人間の情報処理)に関する各種実験、脳波等の生理心理学検査と聴力測定、各種の個別心理検査、集団間の相互作用の様子についての行動観察などを進めるための施設です。また、これらの観察記録や分析のためのシステムも整っています。



リフレッシュルーム

Refresh Room

学生の自己学習を促す、本研究科独自の施設です。各フロアに1箇所ずつ設置され、学生の休息や語らいの場であるとともに、自主ゼミや研究会などに使える施設となっています。眺望の良い明るい部屋には、ソファコーナーのほかに、ミーティングテーブル、プレゼンテーション用の大型モニタ、ホワイトボードなどが設置され、学生はいつでも自由に使用できるようになっています。

施設紹介について
詳しくはこちら



教育学部

東北大学教育学部でとれる資格

● 教員免許状(一種)

中学校(社会)、高等学校(公民)

※ただし他学部の授業との組み合わせで他の教科の免許状を取得することができる

● 社会教育主事

※任用資格、社会教育士(称号)

● 学芸員

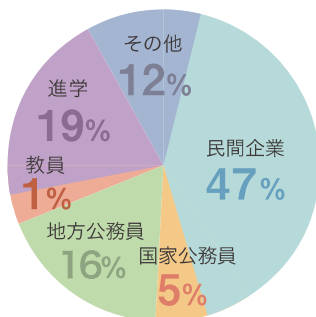
※文学部の科目を履修する必要あり

● 公認心理師

※一部、文学部の科目を履修する必要あり

※ただし「受験資格を得る」だけで試験を受ける必要がある

令和2年度 学部卒業生の進路



公務員・教員(約22%)

厚生労働省、家庭裁判所、北陸農政局、宮城県庁、青森県庁、岩手県庁、福島県庁、栃木県庁、盛岡市役所、高等学校(栃木県)

企業(約47%)

東北電力株式会社、株式会社ニトリ、三菱電機株式会社、トヨタ自動車株式会社、日本通運株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、株式会社読売新聞、ライオン株式会社、ENEOS株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、株式会社村田製作所、アステラス製薬株式会社、三井化学株式会社、東北放送株式会社、公益財団法人日本財団

大学院進学(約19%)

東北大学大学院教育学研究科、信州大学大学、院総合人文社会科学研究科、東北大学大学院文学研究科

教育学部進路について詳しくはこちら



教育学研究科

東北大学大学院教育学研究科でとれる受験資格

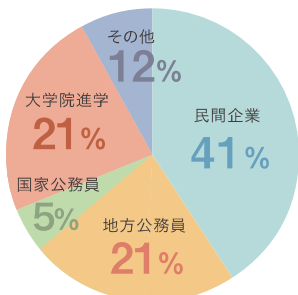
● 公認心理師

● 臨床心理士

● 臨床発達心理士

※ただし「受験資格を得る」だけで試験を受ける必要がある

令和2年度 大学院(修士)修了生の進路



公務員(約26%)

東京都教職員、横浜市役所、家庭裁判所、宮城県庁、宮城県教職員、美里町役場、岩手県教職員

企業(約41%)

西日本電信電話株式会社、ひまわり発達相談センター、株式会社東海理化、株式会社公文教育研究会、独立行政法人日本学生支援機構、株式会社さくらコミュニティサービス、NPO法人ここねっと、日本アイ・ピー・エム株式会社、ベスト学院株式会社、いわぎたいら心療内科、医療法人東横会たわらクリニック、社会福祉法人静岡ホーム、東北大学、Tencent(中国)、GSX Techedu Inc.(中国)、鴻合科技(中国)

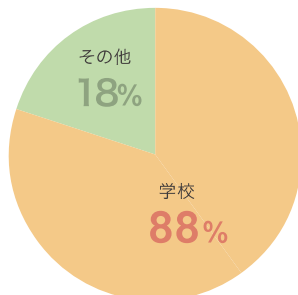
大学院進学(約21%)

東北大学大学院教育学研究科、東北大学大学院医学系研究科

教育学研究科進路について詳しくはこちら



令和2年度 大学院(博士)修了生の進路



学校(約88%)

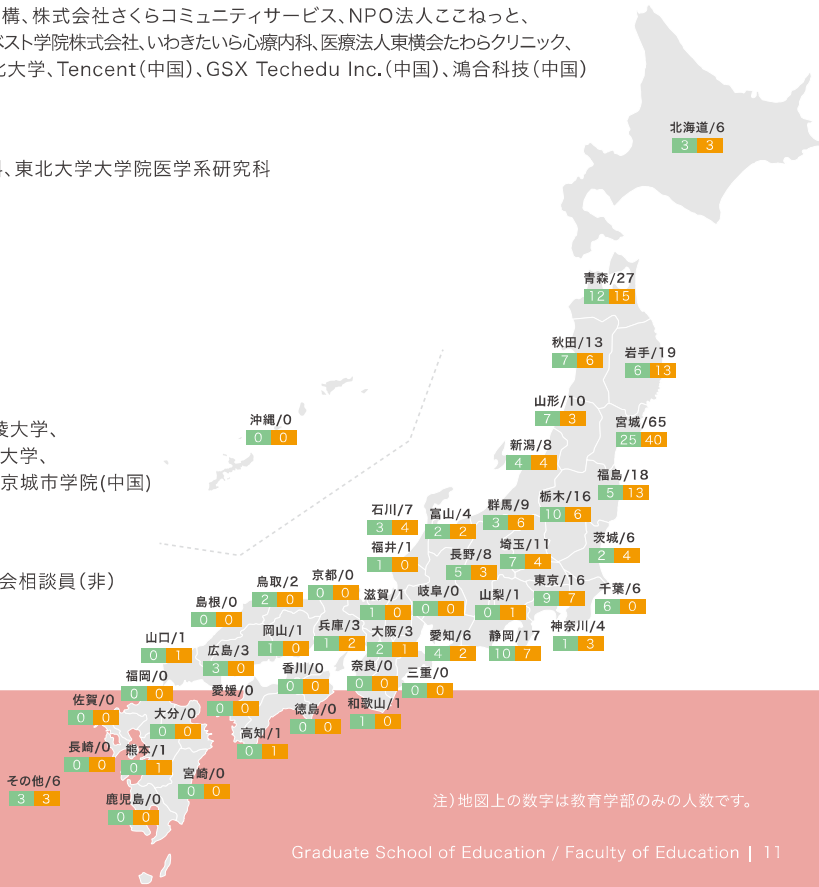
東北大学、山形大学、新潟青陵大学、柴田学園大学、聖和学園短期大学、国際医療看護福祉大学校、北京城市学院(中国)

その他(約18%)

就職活動中、石巻市教育委員会相談員(非)

教育学研究科
教育学部の在学者数
(2021年5月1日 現在)

	男性	女性	合計
教育学部	146名	155名	301名
教育学研究科 前期課程	36名	52名	88名
教育学研究科 後期課程	34名	33名	67名



注) 地図上の数字は教育学部のみ的人数です。

新設 心理支援センター

研究科における心理学の基礎的研究や臨床研究の成果を地域社会に還元し、個人、家族、地域あるいは災害被災者に対する相談援助を行うとともに、公認心理師・臨床心理士養成のための実践的教育訓練を行うことを目的としています。センターには、臨床心理相談室、災害心理支援室、発達・学習心理相談室が置かれており、2020年度末に終了した震災子ども支援室“S-チル”の事業内容を、緊急支援・被災者支援・震災・防災心理教育として災害心理支援室で継続しています。また、既存の臨床心理相談室の支援体制を発展させ、さらに多様な専門性(発達・学習相談、遠隔支援など)を総合的に活用できる支援体制を構築しました。



STAFF スタッフ

若島 孔文 センター長・災害心理支援室室長・教授
 長谷川 真里 副センター長・教授
 安部 英勇 臨床心理相談室室長・准教授
 川崎 聡大 発達・学習心理相談室室長・准教授

臨床心理相談室

子どもの不登校やいじめ問題をはじめ、職場や生活でのストレスや葛藤を持つ人々やその家族に対して、心理査定を含めた臨床心理面接を実施し、地域社会に貢献するとともに、臨床心理士(臨床心理士養成指定大学院1種)および公認心理師を養成するための内部実習機関です。構成員は、臨床心理学コース教員および大学院生を中心としています。

STAFF スタッフ

安部 英勇 室長・准教授
 前田 駿太 副室長・准教授
 若島 孔文 教授
 本多 奈美 准教授
 吉田 沙蘭 准教授
 大場 麗 助教
 亀倉 大地 助教



臨床心理相談室について
 詳しくはこちら

発達・学習心理相談室

発達の問題や気がかり、学習のつまずきなど、乳幼児期から青年期に至るまでの子どもとその保護者への対応の仕方に苦慮する教育・福祉等諸領域の専門家に対して、より専門的なコンサルテーションを実施し、子どもとその保護者に対して求められる発達・学習支援を行います。構成員は、教育心理学コース教員中心としています。

STAFF スタッフ

川崎 聡大 室長・准教授
 神谷 哲司 教授
 工藤 与志文 教授
 長谷川 真里 教授
 野口 和人 教授
 深谷 優子 准教授

災害心理支援室

震災子ども支援室から資料および連携機関を引き継ぎ、(1)災害遺族支援・災害里親支援、(2)緊急支援・被災者支援、(3)災害心理教育を行っていきます。また、災害地域が僻地の場合、遠隔での支援体制を整え、遠隔支援システムを導入します。構成員は、教育学研究科の教員を中心としています。

STAFF スタッフ

若島 孔文 室長・教授
 李 仁子 准教授
 石井山 竜平 准教授



遠隔支援チーム

引きこもり者、介護者家族、遠隔地在住者等遠隔で支援を求める方への幅広いご相談に応じています。





先端教育研究実践センター

先端教育研究実践センターは、社会的に重要な教育課題について、より機動的に対応するとともに、プロジェクト等への参加を通して学生の研究力・実践力を高めることのできる組織です。「重点研究プロジェクト部門」「地域教育支援部門」「研究・教育支援部門」「国際交流支援室」の各組織が研究や取り組みを進めています。

STAFF スタッフ

野口 和人	センター長・教授	安保 英勇	副センター長・准教授
劉 靖	センター員・准教授	尹 得霞	センター員・助教
大河 雄一	センター員・助教	内藤 隆史	センター員・助教
ダグワドルジ アディアニャム	センター員・助教		



先端教育研究実践センターについて
詳しくはこちら ▶

国際シンポジウム・提携校

グローバルな研究活動を行う東北大学は、海外の著名大学の研究者との共同研究交流を重視しています。そのような交流を推進するために、東北大学は、2021年5月現在で世界250大学や機関と大学レベルでの交流協定を締結しており、さらに東北大学の単数もしくは複数の部局(研究科や研究所)が独自に483か所の海外の大学や機関と部局間協定を結んでいます。教育学部(教育学研究科)については、以下の20の大学・機関と部局間協定を結び、活発な研究交流や学生の相互派遣を行っています。



国際シンポジウム・提携校について
詳しくはこちら ▶

大学・機関と部局間協定先一覧

- ロンドン大学インスティテュート・オブ・エデュケーション
- 北京大学日本研究センター
- 明知大学校社会教育大学院
- ヨーク大学教育学部
- 国立台東大学師範学院
- 又松(ウソン)大学校保健福祉学部
- 南京師範大学教育科学学院
- 国立台湾師範大学教育学院
- 高麗大学校師範大学
- 国立政治大学教育学院
- 杭州師範大学教育科学学院
- 北京師範大学教育学部
- 南京師範大学心理学院
- 華東師範大学教育学部
- 華東師範大学心理与認知科学学院
- ソウル国立大学校師範大学
- 東北師範大学教育学部
- 国立インドネシア教育大学教育学部・大学院研究科
- UNESCO バンコク事務所
- 天津大学教育学部

AEL COURSE

AELは「Asia Education Leader」の略で、アジア、特に東アジアにおける教育課題に対応できる国際的視野をもった指導的人材の育成を目指す国際共同教育プログラムです。



AEL COURSE について
詳しくはこちら ▶





学生支援制度
についてはこちら ▶

● 各種奨学金制度

経済的な応援が心と暮らしをいきいきと豊かにします。

■ 奨学金制度

優秀な学生のために、日本学生支援機構による奨学金（第一種・無利子、第二種・有利子）の貸与があるほか、令和2年度からは修学支援新制度により学部学生を対象とした給付型奨学金が始まりました。その他、地方公共団体・民間奨学金団体による奨学金の貸与や給付の制度があります。経済面のしっかりした支援体制で、研究者養成を助けます。どの奨学金も学業成績の優秀な学生、そして経済的理由で修学困難な学生に資格が与えられます。学生生活を円滑に送るため、大切なライフプランニングに役立てることができます。

● TA・RA制度

未来の教育指導者、若手研究者をしっかりとサポートします。

■ TA（ティーチング・アシスタント）

TA制度は、教育学部・博士課程前期2年の課程の授業をアシストするシステムです。成績優秀な大学院生が担当し、手当（時間給）が支給されます。学生を教育指導できる実践トレーニングの経験としてのメリットに加え、この体験は現実世界と理論とを融合させる格好の機会にもなります。

■ RA（リサーチ・アシスタント）

RA制度は、博士課程の大学院生が研究科の研究プロジェクトに参画し、研究に必要な補助を行うシステムです。資格は博士後期3年の課程に在籍する優秀な学生に与えられ、手当（時間給）が支給されます。教員とマンツーマンで、研究の進め方や理論構築のノウハウなどを吸収できます。大学側の研究支援体制を強化するとともに、若手研究者の養成をサポートする充実した内容になっています。

● 日本学術振興会特別研究員制度

創造性豊かな研究者養成のために研究奨励金を支給します。

大学院博士課程在学者及び修了者などで優れた研究能力を備え、大学その他の研究機関で研究することを希望する研究者を「特別研究員」に採用し、研究奨励金を支給する制度です。

特別研究員になると、主体的に研究課題や研究の場などを選びながら、研究に専念する機会を持つことができます。わが国の学術研究の将来を担う、創造性に富む研究者の養成を目的としています。

● 博士研究員制度

就職前のポスドクの研究環境を保障します。

博士研究員は、教育学研究科又は教育情報学教育部の博士課程3年の課程を修了した者を対象に研究者としての地位を保障する制度です。博士研究員は、授業料を払わずに本学の施設・設備の使用、指導教員による指導を受けることができ、さらに本学の研究者としてさまざまな研究費に独自に応募することができます。

● 東北大学学際高等研究教育院制度

新領域を創造する若手研究者を支援します。

東北大学学際高等研究教育院とは、既存の研究科・教育部の枠にとらわれず、新しいタイプの異分野融合からなる新領域の学際的研究を創造し、世界トップレベルの研究者を目指す若手研究者養成のための、東北大学独自の支援組織です。奨学金支給、論文投稿諸費用や学会、国際会議出席費用等の各種支援を受けられるほか、研究計画に見合った研究費や研究環境又は国際インターンシップのための助成、ポスドクの雇用等の支援事業を行っています。

また、教育学研究科に所属しながら「修士研究教育院生」「博士研究教育院生」に採用されることで、奨学金や研究費の助成が受けられます。

● 長期履修制度

個々の事情にもとづいた修業年限の設定が可能です。

長期履修制度は、職業に従事している等の個人的事情により修学に専念できない大学院生を対象に、標準修業年限（前期課程2年・後期課程3年）を超えて在学することを認めるシステムです。授業料も標準修業年限分の納入額のみとなります。この制度は、より多くの人びとに大学院教育の機会を提供することがねらいです。



教育学研究科

令和2年度 博士論文

- ヤングケアラーにおける家族システムおよび親子サブシステムが当事者の生活適応に及ぼす影響に関する研究
- 教授学習場面におけるICTおよび生体指標を活用した学習者の実態把握に関する研究
- ストリーキング加害者に対する被害者の認知が心理的苦痛に及ぼす影響に関する研究
- 女子高等教育の経済的・社会的効果 —就労特性を踏まえた実証分析—
- 幼児期・児童期における表情抑制に影響を及ぼす要因に関する研究 —みかけの情動理解と表情表出の巧緻性に注目して—
- 家族表象と青年期の適応行動との関係 —学校臨床における新たなアセスメントの開発をととして—
- 大学生における学生生活サイクルと意思決定スタイル —自己形成支援のための臨床心理学的研究—
- 家族内の間接的コミュニケーションに関する臨床心理学的研究 —青年期の子ども視点からの検討—
- Multiple Determinants of Maternal Emotion Socialization : A Process Model (母親による情動の社会化に関する影響要因：プロセスモデルの検討)
- 学生相談カウンセラーの成長支援に関する研究

令和2年度 修士論文(抜粋)

- 重度障害者の高等教育へのアクセスを拓く —学び続けることへのあきらめを越えるということ—
- 中国における中間層の家庭教育に関する研究 —江蘇省の事例として—
- 大衆化する大学の日本的構造 —大学役割認知と早期卒業制度に着目して—
- 学校規模・学級規模が小中学生の不登校出現・継続に与える影響
- 博物館の社会的役割 —構成主義から進歩主義教育へ—
- シティズンシップ教育がひらく民主主義と主体性
- 工業高校特有の学びに関する一考察 —好奇心と職業体験学習の側面から—
- 学校評価のIRTスケールに基づくCS分析法の開発
- PAC・TEAを用いた個への質的アプローチの可能性 —高校生の進路決定プロセスを通して—
- 特別なニーズのある幼児への支援に向けた教職員協働における課題 —幼稚園を対象とした実態調査より—
- 大学生における職業的ジェンダー・ステレオタイプと職業への就労に対する感情が職業的自己効力感に及ぼす影響 —職業の性別適性に注目して—
- 解決志向アプローチが母親のレジリエンスに及ぼす効果 —乳幼児期の育児場面に注目して—
- 障害者のきょうだいが「親亡き後」への思いを抱くまでのプロセス —きょうだいと親、同胞の三者関係に着目して—
- 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する臨床心理学的検討 —感染脆弱意識と社会考慮に着目して—
- 不妊治療と仕事の両立を可能にする要因の検討 —精神的負担とコーピングに着目して—

博士論文・修士論文
についてはこちら ▶



教育学部

令和2年度 卒業研究(抜粋)

- 復興過程における震災復興祈念公園の役割
- 両親のジェンダー関係がきょうだいの教育達成に与える影響に関する実証分析
- 都道府県総合教育会議制度運用の要因分析
- 記述式問題の自動採点のための効率的な学習データ構築手法の提案
- 現代社会のコミュニケーションと正義 —「炎上」に着目して—
- セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツから見た日本の学習指導要領の改善に向けて
- 日本の自殺予防教育の現状と問題点
- ESDを軸とした教科横断的なカリキュラム・マネジメントの推進 —高等学校の実践を中心に—
- 旧制高等学校の歴史から見るパンカラ文化の継承 —岩手県立盛岡第一高等学校を事例に—
- フィンランドにおける高等学校卒業直後の大学進学率を規定する制度要因
- ナッジを用いた動機づけの原理とその応用 —消費者の行動変容に向けた効果的な情報提示の探究—
- 発達障害(傾向)のある者への態度に関する要因の検討 —知識と接触経験の自覚に着目して—
- 不登校傾向と感覚処理感受性の関連についての検討
- 子どもの貧困に対する教員の認知と支援について
- 小学校の児童における合理的配慮への理解の現状と課題 —障害理解教育の観点から—
- マインドフルネスが精神疾患罹患者に対するパブリック・スティグマに及ぼす影響 —アクセプタンス&コミットメントセラピー(ACT)の観点から—
- 特別支援学校高等部における進路指導や就労支援における教員の指導観の解明 —評価の観点および進路決定に与える影響の精査を通じて—
- 自己受容の条件性の有無が人生に対する積極的態度とストレス反応に及ぼす影響
- 大学生の英単語音声分節化に英語音韻習得が与える効果
- 競争的場面における学習方略使用と達成動機及び自己効力感の関係
- 青年期における自己受容・他者受容とひとりで行われる能力の関連

卒業研究
についてはこちら ▶



Q1 東北大学の教育学部ってどんなところ？

A1 普通に「教育学部」と聞くと「先生になるための勉強をするところ」と考えますよね。もちろん、東北大学の教育学部を卒業して先生になる人もいます。でも、「教育」は学校にいる間だけの現象なのでしょうか。東北大学の教育学部は、教員養成を主眼とする教育学部とは異なり、人間の誕生から一生涯にわたるすべての教育を研究の対象としています。例えば、家庭での親と子の関係、子どもが心と体を発達させていく過程、社会に出てからの地域や企業での学び、子どもだけでなくすべての世代が直面する心の問題や老いの問題、障害を持つ人々、そしてこれら教育の問題にどのような対処するかを行政や社会全体の問題として考える。このすべてが教育学の研究対象なのです。

Q2 東北大学の教育学部に入ったらどのように学ぶのですか？

A2 東北大学の教育学部に入学したら、まず、学問の基盤や幅広い専門的教養を身につけるために他学部の学生と一緒に一連の「全学教育科目」を学びます。それと同時に、教育学部生共通の知識や研究方法の基礎を身につけるために「学部共通科目」を学んでいきます。学年が進むと、高校時代に理系や文系のコースに分かれたように、「教育学コース」「教育心理学コース」に分かれ、各専門分野の講義をまんべんなく履修することで教育学部生としての幅広い教養を身につけながらも、履修モデルに従って将来研究する専門領域の知見を深めていきます。さらに大学生活後半になると、希望する指導教員を選び、卒業研究に向けて「研究指導」を受けることになります。この段階では、自分の研究する領域に関わる講義や演習を受けながら、自分の興味・関心のある研究テーマについての研究を深めていきます。4年生になると卒業研究が中心となり、自分がこれまで進めてきた研究を「卒業研究」としてまとめます。

Q3 東北大学の教育学部を卒業した後の進路はどのようになっていますか？

A3 教員養成を主眼とする教育学部を卒業した学生さんの多くは、教員採用試験を受けて教員になることを目指している方が多いようです。東北大学の教育学部にも教員を目指して実際に先生になっている人も多くいます。しかしながら、東北大学の教育学部からは、先生になるだけでなく文部科学省や都道府県、市の職員となって行政の立場から教育に関わっていくとする学生さんもたくさんいます。その他に、教育に関わる民間企業だけでなく、金融や情報通信に関わる民間企業に就職する人も多くいます。このように学部を卒業して就職するだけでなく、少なからぬ学生さんが大学院に進学して学びを継続させています。東北大学は全国でも有数の「大学院大学」で、多くの大学院生が盛んな研究をしています。学部からの進学組だけでなく、他の有名大学からの進学組、社会で教育に関わる仕事をされているプロフェッショナル、大学や中学・高校の先生方も「大学院生」となって若いみなさんと一緒に学び研究をしています。みなさんが就きたいと思う仕事の中には、例えば臨床心理士や公認心理師などは大学や大学院で学ばないと挑戦できない資格などもあります。学校の先生になる場合でも、大学院まで学べば「専修免許状」という特別の教員免許状を得ることができます。高校生のみならず、せっかく東北大学に興味がありなら、大学院進学のことまで調べてみましょう。

Q4 なぜ、地元の大学ではなく東北大学の教育学部を勧めるのですか？

A4 高校生のみなさんは、今はまだ「偏差値」や「通いやすさ」で大学を選んでいる最中かもしれません。しかし国立大学には、それぞれの特性に応じた役割があたえられています。地域に密着して社会に貢献している大学、特定の分野に強みがあって世界と勝負している大学など、高校生のみなさんから見たら同じ「国立大学」で、自分たちはそこに入学して「勉強」するだけだと考えがちです。でも、入学後に、みなさんが活躍したり貢献したりできる方法は、大学に与えられた役割によってずいぶん異なってきます。東北大学は、すべての分野で世界的な活躍を期待されています。もちろん、教育学部もその役割の一端を担っています。どの国立大学の役割も尊いですが、もし、みなさんが社会全体の中での教育を考えたり、世界の人と協力して仕事をしたりしたいと考えているのなら、東北大学教育学部で私たちと一緒に研究したり活躍したりする大学生活はいかがでしょうか。

東北大学教育学部 Q&A
詳しくはこちら



東北大学大学院教育学研究科
東北大学教育学部

〒980-8576 仙台市青葉区川内27番1号
TEL | 022(795)6105
URL | <https://www.sed.tohoku.ac.jp/>

